

患者の皆様へ

2023 年 8 月 日
泌尿器科

現在、泌尿器科では、「転移性前立腺癌における泌尿器科関連合併症の頻度と局所放射線照射の効果」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、2008 年 1 月から 2017 年 12 月に転移性前立腺癌と診断された方の診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名

転移性前立腺癌における泌尿器関連合併症の頻度と局所放射線照射の効果に関する後向き研究（宮崎大学倫理審査委員会承認番号：0-04031）で収集したデータの解析

2. 研究の意義・目的

転移性前立腺癌の治療中に、どの時期にどの程度の泌尿器関連合併症が発生しているか調査し、それらが局所放射線照射によりどの程度改善しているかを評価解析する。

転移性前立腺癌に対する標準治療はホルモン療法ですが、早期の局所治療(手術・放射線)追加が予後を延長する可能性を示唆する研究結果が複数報告されています。日本人は欧米人よりも転移性前立腺癌患者の予後が長いと報告されており、独自の検討が必要です。日本人の転移性前立腺癌の 5 年生存率は標準治療下で 80%を越え、局所治療追加による予後延長効果は期待しにくいと想定されます。一方で、転移性前立腺癌患者の約半数において、死亡までに、血尿、尿閉、尿管狭窄など何らかの泌尿器関連合併症を認めると報告され、それらを局所放射線治療により泌尿器関連合併症を予防できる可能性があると考えられます。

3. 研究の方法

対象となる患者さんのカルテ情報から、以下の項目について調査した内容を利用させていただきます。

＜本研究で利用する情報の内容＞

診断時の状態：生年月、診断日、診断時症状、前立腺癌家族歴、前立腺体積、生検本数、癌陽性本数、PSA、LDH、ALP、Hb、組織型、グリソンスコア、cT、cN、cM、転移部位、

骨転移個数、診断時直腸診所見、診断時 MRI 所見

ホルモン治療内容：治療開始日、初回治療法、ホルモン療法開始日、去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）確定日、CRPC 診断時画像検査の種類、CRPC 診断時画像評価日、CRPC 時 cT、CRPC 時 cN、CRPC 時 cM、CRPC 時転移部位、CRPC 時骨転移個数

局所治療内容：局所放射線治療の有無、放射線治療開始日、線量、照射回数、放射線治療の目的、放射線治療前の排尿関連合併症の有無、局所手術治療の有無、手術治療開始日、手術治療の種類

局所再燃に伴う症状：尿路感染、血尿、頻尿、尿閉、尿管狭窄、排尿痛、その他の有無、グレード、発症日

放射線に伴う症状：尿路感染、血尿、頻尿、尿閉、尿管狭窄、排尿痛、その他の有無、グレード、発症日

外科的放射線科的介入：種類、対象症状、介入日、介入後の状態、介入後状態の評価日

予後：最終経過観察日、死亡日、死亡の有無

備考

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、氏名等の特定の個人を識別できる符号を削除の上、外部に漏れることのないようにして厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学教室の鍵のかかる保管庫で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省・経済産業省による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関：千葉大学医学部附属病院泌尿器科

本件のお問合せ先：医学部附属病院泌尿器科

准教授 坂本信一

043（222）7171 内線5343（泌尿器科学教室）